

くす通信

第142号
2012年12月1日

国立病院機構 熊本医療センター発行

インフルエンザについて インフルエンザの薬について



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

インフルエンザの薬

飲み薬

①タミフルカプセル・ドライシロップ(粉薬)

A型インフルエンザおよびB型インフルエンザに有効な抗ウイルス薬です。粉薬とカプセルがあり、1歳以上のお子さんから使用できます。人により異常行動がでる可能性があり2-3日は保護者の観察が必要です。予防的に使用することもあります。

②シンメトレル錠・細粒

シンメトレルはA型インフルエンザにのみ有効でB型には効果はありません。この薬に効きにくいタイプがあるので現在ではあまり使われることはありません。

吸入薬

①リレンザ

A型インフルエンザおよびB型インフルエンザに有効な抗ウイルス薬です。口から吸入する抗インフルエンザ薬です。主に5歳以上の方で上手に吸入できる方に使用されます。病医院や薬局で確実に吸入できるよう説明を受けて下さい。気管支喘息のある方は吸入時呼吸が苦しくなる可能性があるため吸入が終わるまで注意が必要です。

②イナビル(吸入薬)

リレンザと同じく吸入する抗インフルエンザ薬です。1回の吸入で治療が終了します。A型インフルエンザおよびB型インフルエンザに有効な抗ウイルス薬です。1回で治療が終わりますので確実な吸入が必要です。なるべく病医院や薬局でその場で説明を受けながら吸入するとよいでしょう。

点滴注射薬

ラビアクタ点滴薬

静脈から全身に投与する抗インフルエンザ薬です。A型インフルエンザおよびB型インフルエンザに有効な抗ウイルス薬です。急速に進行する重症肺炎やインフルエンザ脳症が疑われるなどの入院加療が必要なときに慎重に使用されます。

インフルエンザは基本的に安静にして休養・水分・睡眠を十分にとりましょう。

インフルエンザの薬について

薬剤師 島 眞一郎

インフルエンザの治療の基本は症状をやわらげるための対症療法と、抗インフルエンザウイルス薬による治療です。特に喘息や心臓病などの慢性の病気を持っている人がインフルエンザを疑う場合は早めに医療機関を受診しましょう。また、体力や抵抗力を高めるための生活習慣や家庭看護(一般療法)も大切です。

対症療法

熱が高い場合には解熱薬(アセトアミノフェン〔カロナール〕など)鼻水には抗ヒスタミン薬(クロルフェニラミン〔ポララミン〕など)のどの痛みには消炎鎮痛薬(アセトアミノフェン〔カロナール〕など)やうがい薬を咳や痰には症状に応じて鎮咳薬・去痰薬を、というように、それぞれの症状をやわらげる薬を使います。

解熱薬は種類によっては使用を避けるべきもの(ジクロフェナク〔ボルタレン〕やロキソプロフェン〔ロキソニン〕)があり、注意が必要です。不安なときは医師や薬剤師に相談しましょう。

抗インフルエンザウイルス薬による治療

従来、インフルエンザの治療は対症療法と自然治癒力に頼るしか方法がありませんでした。近年になってインフルエンザウイルスに直接働く抗インフルエンザウイルス薬の開発が進み、治療によく使われるようになりました。

インフルエンザウイルスが細胞内に侵入するのを阻止したり、細胞内で増殖したインフルエンザウイルスが細胞外へ出て行くことを止めるなどによって、インフルエンザの症状を軽くすることが知られています。

インフルエンザウイルスの薬の形(剤形)には、飲み薬と吸入剤、点滴注射薬があります。いずれの薬も市販されていません。年齢や体重、インフルエンザにかかって何日目か、合併症があるかなど様々な条件によって使える薬に制限があります。

抗インフルエンザ薬については、病院・診療所の医師や調剤する薬剤師などに相談してその指示に従って下さい。

国立病院機構 熊本医療センター

- 総合医療センター 総合診療科、血液内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科
- 消化器病センター 消化器内科
- 心臓血管センター 循環器内科、心臓血管外科
- 脳神経センター 脳神経外科、神経内科
- 感覚器センター 眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科
- 画像診断・治療センター 放射線科
- 救命救急センター 救急科
- 精神科 ■ 小児科 ■ 外科 ■ 整形外科
- リハビリテーション科 ■ 泌尿器科 ■ 産婦人科
- 歯科口腔外科 ■ 形成外科 ■ 麻酔科 ■ 病理診断科

救命救急科

救急科スタッフ

救急専従医 7 名・兼任医 4 名を中心に、時間内の救急外来診療、ヘリコプターへの搭乗および、様々な重症患者様の入院診療を行っております。

救命救急センター外来

当院は病院の方針として救急車や他医療機関からの紹介患者をはじめとした救急患者様を「断らない」方針です。これに基づき、全診療科・全職員が一丸となって 24 時間 365 日体制で救急医療を行っております。外来には心疾患、呼吸器疾患、神経疾患、消化器疾患、代謝性疾患、外傷、中毒、精神疾患をはじめ、泌尿器科・皮膚科・眼科・耳鼻科・産婦人科・小児科・歯科などまで多くの救急患者が搬入されております。また今年 1 月からは熊本県でもドクターヘリ事業が始まり、ドクターヘリも同様に受け入れを行うとともに、当院は熊本県防災消防ヘリ「ひばり」とタッグを組み、ヘリコプター救急活動を行っております。

救命救急センター病棟・ICU

救命救急センター外来の直上の 5 階には救命救急センター病棟 (44 床) と集中治療室 (6 床) があります。様々な診療科の多くの重症患者様の緊急入院を受け入れ、急性期の集中治療を行うために十分なスタッフと医療機器を整えております。特に集中治療室ではベッドサイドでの透析治療、循環補助装置などの特殊な治療が必要な患者様の治療も行っております。また手術室に直結しており、緊急手術が必要な患者様も速やかに移動ができるようになっております。救命救急センター病棟は救急患者を日々多く受け入れているために、患者様の状態がある程度落ち着かれましたら、各診療科の病棟へ移動していただき、一般病棟ではさらにそれぞれの専門的な治療を行いながら、退院や転院までをサポートいたします。

インフルエンザについて

救命救急部 部長
原田 正公



インフルエンザとは?

インフルエンザウイルスとは、いわゆる「風邪ウイルス」です。風邪はいろいろなウイルスで起こりますが、インフルエンザで起こる風邪は 38 度以上の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状が突然起こります。高齢者や免疫の低下している患者様では、肺炎を合併したり、お子様では脳症を起したりし、重症になることもあります。また咳などを介して人から人へ感染します。毎年 12 月～3 月にかけて流行するインフルエンザのことを「季節性インフルエンザ」といいます。

新型インフルエンザとは?

新型インフルエンザウイルスとは、これまで人間には感染しないといわれていたトリやブタのインフルエンザウイルスが人間にも感染するようになったものです。新型インフルエンザは季節性とは異なり、突然発生し流行します。また人間はこれに対する免疫を持っていないために大流行 (パンデミック) を起こす危険性があります。

これまでも「スペインかぜ (大正 7 年)」「アジアかぜ (昭和 32 年)」「香港かぜ (昭和 43 年)」などの新型インフルエンザが流行した歴史があります。

皆様もよくご存じの、平成 21 年に流行したインフルエンザ (H1N1) はこの新型インフルエンザになります。当初は新型と呼ばれますが、徐々に人間もこのインフルエンザに対する免疫をもつようになりますので、次第に季節性のような性質となります。平成 21 年に流行した新型インフルエンザも平成 23 年 4 月からは季節性として取り扱われることとなりました。

インフルエンザの予防は?

季節性であっても新型であっても予防は基本的には同じです。手洗いやうがい、マスクの着用はインフルエンザに限らず、すべての感染予防の基本ですので、心がけるようにしましょう。また体の抵抗力が低下すると風邪をひきやすくなりますので、十分な休養とバランスのとれた栄養を心がけるようにしましょう。

インフルエンザワクチンは、インフルエンザの発症と重症化を防ぐ効果があるといわれています。しかし、「ワクチンを接種してもインフルエンザにかかる可能性はゼロにはなりません」ので基本的な予防は必ず行いましょう。インフルエンザワクチンは毎年少しずつ内容が違います。また、ワクチンの効果は接種した 2 週間後～5 か月間程度と考えられています。昨年接種したからと言って大丈夫というわけではありませんので、今年度の季節性インフルエンザを予防するためには今年度のワクチンを接種する必要があります。

インフルエンザの治療は?

現在は多くのインフルエンザ治療薬が開発されています。インフルエンザかなと思ったら、必ずマスクを着用して、医療機関を受診しましょう。適切な時期にインフルエンザの薬を使用すると発熱期間が短くなることが期待できます。症状が良くなるまでは自宅で安静にしてしっかり休養をとってください。また他の人にうつさないためにも学校や職場、人ごみの中には行かないようにしましょう。またお子様ではインフルエンザにかかることで異常行動が起こる可能性が報告されていますので、保護者の方はお子様が独りにならないように気を付けてあげてください。

- 診療時間 8:30～17:00
- 受付時間 8:15～11:00
- 休診日 土・日曜日および祝日

〒860-0008 熊本市中央区二の丸 1-5
TEL 096 (353) 6501 (代表)
FAX 096 (325) 2519
H P <http://www.nho-kumamoto.jp/>

急患は
いつでも
受け付け
ます